

学校番号	2004
------	------

令和4年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道III	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	書III(教育図書)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

書道の創造的な諸活動を通じ、生涯にわたり書を愛好する心情と書の文化や伝統を尊重する態度を育成するとともに、書道Ⅰ・Ⅱで学習した内容を更に深め、感性を磨き、個性豊かな書表現や鑑賞活動に取り組む。

授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い、評価については各单元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統と文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の能力を高める。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする姿勢を育む。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、構想に基づいた表現の技能が身についている。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさ、書の表現意図を、創造的に鑑賞する。
評価方法	作品 ワークシート	作品 ワークシート	作品	ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学 期	単 元 (学習項目)	学習内容	主な評価の観点				単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方 法
			a	b	c	d		
1 学 期	「漢字仮名混じり」の学習	◆グループ学習を行い、相互批正をおこなうことで、コミュニケーション能力と他者の作品を尊重する心情を育てる。 ◆漢字仮名混じり文で作品制作を行なうための、基本的な表現方法を硬筆で行う。 ◆詩句のイメージ・内容を理解し、字形の変化や紙面への配置など、ふさわしい表現を構想・工夫し、硬筆で作品の草稿を作成する。 ◆毛筆での制作にあたり、詩句のイメージ・内容が伝わるよう用筆法を工夫する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	a:表現とは何かを理解し、積極的に取り組んでいる。 作品の唯一性を尊び、丁寧に作品を扱っている。 b:語句の意味を考え、制作時の表現意図が作品に反映するよう工夫している。 c:構想をもとに、表現する技能を身に付け表している。 d:作品の相互批評を行い、自他の作品の意図を考え、個々にしか書けない文字の尊さを感じその良さを味わっている。 製作段階に応じ、各観点を提示	ワークシート (作品) 観察
		◆上記、制作した作品を文化祭に展示できるようパネルに表具する。 ◆各自の作品が唯一物であることを理解し、物品などに対し大切に扱う心情を育てる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			a:作品表具の際、作品の唯一性を尊び、丁寧に作品を扱っている。 b:表具の際のマット・化粧紙の色調など自分の作品に合うよう、工夫している。	
		◆硬筆で実用書を学び常識的な書式や文化を理解する。 ◆行書体での「暑中見舞い」を制作する。		<input type="radio"/>			b:ハガキの書式を理解し、丁寧さを持って制作し、工夫している。 紙面の文字の大きさ・バランス・配置など適正である。 c:行書の特徴・技法を適切に表現できている。	
2 学 期	古典臨書学習	◆書道Ⅰ・Ⅱで学習した篆書・隸書・楷書・行書・草書・仮名を書道Ⅲの教科書を中心に順次学習する。 ◆書道Ⅰ・Ⅱで修得した技能・知識を確認しつつ、感性をもって臨書での表現を工夫する。 ◆様々な書体の中から、興味をもち得意となる古典を発見させる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		c:各古典の特徴を理解し、構想に応じ表現を工夫している。 d:各古典の特徴を考察し、美しさや趣を味わっている。	ワークシート 作品 観察

※令和3年度以前入学生用

	臨書作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ◆上記内容をふまえ、各自古典を1つ選択して作品制作を行う。 ◆作品サイズに合う落款印を制作する。 	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<p>a:体験を通じ、作品制作の古典選びを積極的に根拠を持って行っている。</p> <p>b:各古典の歴史的背景・特徴を理解し表現を工夫している。</p>	ワークシート 作品観察
3 学期	共同作品 ・「卒業の歌」	<ul style="list-style-type: none"> ◆卒業式に歌う「卒業の歌」を題材に、協同作品を制作する。 ◆歌詞全体を受講生全員で分担し、半紙程度の作品サイズで制作し卒業式に展示する。 ◆担当部分の前後する作品の構成を考慮し、常に全体でコミュニケーションをとりながら作業を進める事で、共同作品としての作品レベルの向上と責任感の共有を意識付ける。 	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<p>a:表現とは何かを理解し、積極的に取り組んでいる。</p> <p>学生生活最後の作品として、受講生全体で協調・協力の念を持って作品制作に取り組もうとしている。</p> <p>b:自分の作品だけでなく、共同作品として構成するにあたり、他の作品が活かせるよう相互批正を有効に活用し、自分の表現を構想・工夫している。</p>	ワークシート 作品観察

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。